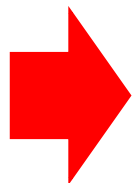


近年の自然災害における主な被害

- 平成30年7月豪雨
 - ・バックウォーター現象や土砂崩れによる洪水土砂氾濫
 - ・道路や鉄道の法面崩壊による人流、物流の寸断
- 平成30年台風第21号
 - ・関西国際空港の孤島化、港湾のコンテナの崩れ・流出
 - ・越波等による住宅地への浸水
- 平成30年北海道胆振東部地震
 - ・大規模停電、土砂崩れや液状化現象の発生
 - ・観光業への影響
- 令和元年8月前線に伴う大雨
 - ・河川の氾濫・油流出、土砂崩れ
 - ・高速道路や鉄道の法面崩壊による人流、物流の寸断
- 令和元年台風第15号
 - ・電柱倒壊や倒木による道路閉塞・停電
 - ・成田空港へのアクセス遮断による多数の帰宅困難者
 - ・首都圏の鉄道の大規模運休
 - ・横浜港の護岸や臨港道路の損傷
- 令和元年台風第19号
 - ・多くの国管理河川で決壊する等広域で、大規模な被害
 - ・首都圏を貫流する多摩川、荒川でも浸水被害が発生し、利根川、荒川の本川も決壊寸前
 - ・新幹線や高速道路の不通による人流、物流の寸断
 - ・役場や社会福祉施設の孤立
 - ・水位等情報提供システムの脆弱性



近年、災害が**激甚化・頻発化**するとともに、**多様化・複雑化**。
これまでの施策では対応しきれない**新たな課題**が明らかとなった。

今年度の台風第19号、昨年度の西日本豪雨など全国で大規模な災害が頻発。今後、地球温暖化による降雨の更なる頻発化・激甚化が確実視。



社会全体で備える防災意識社会の構築を図るため、「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト(仮称)」を策定し、その意識を持続させていくことにより、災害列島という宿命をもつ我が国で、総合力で災害を克服する社会の実現を図る。

「総力戦」の意味 — “「手段」「主体」「時間軸(事前～事後)」 3つの総力”

○ハードから、ソフトまで「手段」の総力

- ・ ハードとしては、堤防などの構造物、耐震設計、土地利用など
- ・ ソフトとしては、組織体制、避難促進、情報提供など
基準や制度の見直しを含む

○国・県・市のみならず企業・住民まで、本省と出先(現場力)までの「主体」の総力

○平時の備えから非常時の危機管理、復旧復興まで「時間軸(事前～事後)」の総力

【基本テーマ】

- ①気候変動や切迫する地震災害等に対応したハード・ソフト対策
- ②防災・減災のための住まい方や土地利用のあり方
- ③計画運休・災害時の情報提供等を含む交通分野の対策のあり方
- ④防災・減災のための長期的な国土・地域づくりのあり方

【検討の観点(3つの総力)】

防災意識社会実現のため、**3つの総力**を挙げて防災・減災に挑む。

- ①ハード・ソフトの多様な「**手段**」の総力
- ②行政と民間・住民等の多様な「**主体**」の総力
- ③平時の備えから、発災時、復旧・復興までの「**時間軸(事前～事後)**」の総力

【とりまとめの基本的考え方】

- ・「基本テーマ」ごとに検討を進め、最終的には、「検討の観点(3つの総力)」をベースに横断的にとりまとめ
- ・特に重要な施策については、3月末に中間報告
- ・6月頃までに、一定のとりまとめを行うとともに、引き続き検討を要する中長期的取組について整理